

単位: %

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類	備考
ほ場率 (%)	発生ほ場数	5	0	3	0	6	20	2	2	0	総調査ほ場数: 50か所 総調査株数: 1,250株 (調査株数 25株)
	本年平均値	10.0	0.0	6.0	0.0	12.0	40.0	4.0	4.0	0.0	
	平年値	6.6	0.0	11.0	0.9	22.1	34.2	13.8	2.1	1.0	
	(本年平均値/平年値) × 100	151.5	-	54.5	0.0	54.3	117.0	29.0	190.5	0.0	
株率 (%)	発生株数	3	0	4	0	18	148	0	1	0	○今月の病害虫発生状況○ ・炭疽病は増加の傾向にあります。 ・ハダニ類は発生が多いほ場も見られます。 ・ハスモンヨトウの発生は増加しており、食害痕が見られます。
	本年平均値	0.2	0.0	0.3	0.0	1.4	11.8	0.0	0.1	0.0	
	平年値	0.3	0.0	1.1	0.0	4.2	7.9	0.8	0.1	0.1	
	(本年平均値/平年値) × 100	66.7	-	27.3	-	33.3	149.4	0.0	100.0	0.0	
発生程度	やや多	少	やや少	少	やや少	やや多	やや少	多	少		
概 評		やや多	少	やや少	少	やや少	やや多	やや少	やや多	少	

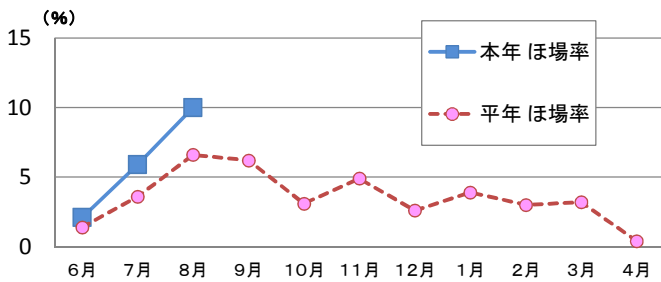


図1 炭疽病発生ほ場率

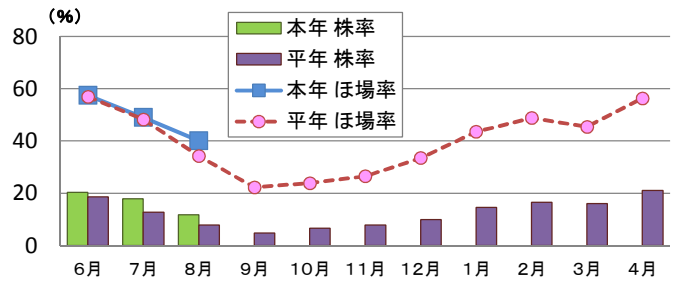


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

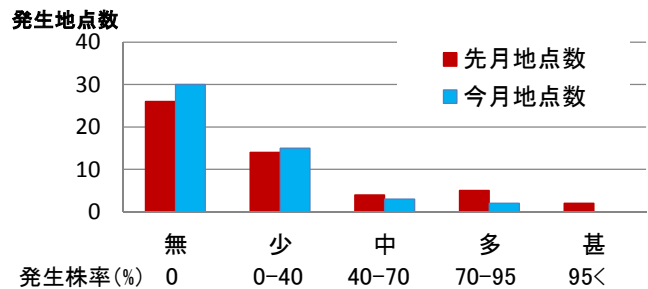


図3 発生程度別の地点数(ハダニ類)

○炭疽病対策

- ・発病株は見つけ次第取り除き、ほ場外で処分する。また、潜在感染株を本ほ場に持ち込まないために、発病株周囲の株は使用しない。
- ・水滴の飛散等によって伝染するので、水の跳ね返りのないようなかん水を行う。また、茎葉のぬれ時間が長くなるように、かん水は晴天日の午前中に行い、曇雨天日及び夕方のかん水を控える。
- ・水冷方式による夜冷育苗を行う場合、施設内が多湿条件にならないよう循環扇等を利用する。
- ・症状が出てからの防除は困難なので、予防を主体にベルコート水和剤等を散布する。
- ・発病株が見られたら、速やかにサンリット水和剤等を散布する。

○ハダニ対策

- ・雑草は発生源となるため、除草を徹底する。
 - ・苗による本ほへの持ち込みを防ぐため、育苗床での防除を適正に行う。
 - ・気門封鎖剤を活用し、有効薬剤を温存する。
- * 当センターHPIに「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」を掲載中。



写真1 炭疽病(斑点型病斑)

○今月の技術情報(技術指導班)○(8月)

- ・先月に引き続き、ハダニ類の発生がやや多い状況です。またハスモンヨトウの発生がこの時期からやや多めになっています。
 - ・炭疽病の発生は、多湿、高温傾向が続いているため、やや多い状況にあり、今後さらに増加する可能性もあり、注意が必要です。日常のこまめな観察により病害虫の早期発見に努め、本ほ場に持ち込まないように、育苗床でしっかり防除しましょう。
 - ・台風、雷雨と高温により、苗の生育の遅れ、充実不足が懸念されます。現在は育苗期の後半になりますが、日照に応じた遮光や、育苗ポットの並べ替え、かん水量の調整などの対策を行い、定植までに、揃いが良く、充実し締まった苗が出来よう心掛けて下さい。
- また、苗の揃いが悪いと花芽の分化がばらつきます。定植は、頂花房の花芽分化をしっかりと確認してから行いましょう。